

○ 種子の本 (古池 博) Hiroshi FURUIKE : Handbooks of Seeds

種子の同定が必要な機会が多いが、わが国ではまだ、本格的なマニュアルが完成していないので困ることがある。筆者の目にとまった参考書を2~3紹介してみたいと思う。まず、中学生・高校生にも使えるのは
①三好保徳 1977 “木の実・草の実” ニューサイエンス社であろう。初歩的な知識が得られるが、系統的でないのと種類数の少ないのが欠点である。

現在ではほとんど手に入らないと思われるが

②岡田た江 1964 “日本の果実と種子” (1) 南江堂は、系統的に280種をのせている。この仕事の継続が期待されるが、続いて刊行されていないのは惜まれる。図鑑類では

③北村四郎他 “原色日本植物図鑑” 保育社の各篇 (草本編 (I) 1957, 同 (II) 1964, 木本編 (I) 1971, 同 (II) 1979) に図が多く、ゆきとどいている。著者が、この方面に関心を持ってこられたことの反映であろう。残念ながら図の小さいことが難点である。

④笠原安夫 1971 “日本雑草図説” 第8版, 養賢堂

⑤長田武正 1974 “日本帰化植物図鑑” 第4版 図鑑の北隆館のものは図がいずれもゆきとどいているが、やはり種子から出発して種類の同定ができ難い点では他の図鑑と同様である。

⑥山中寅文 1975 “植木の実生と育て方” 誠文堂新光社はおもに園芸植物を扱ったものであるが参考になる。印刷があまり良くないので写真等が不鮮明である。本格的な教科書は

⑦ BROWER, W. & STÄHLIN, A. 1975 Handbüch der Samenkunde. DLG-VERLAG. Frankfurt であろう。図はていねいではないが、ともかく、主要な種類については (約2500種) 種子の記載があり、かなりのものについては、図が添えられている。末尾には80ページあまりの検索表がのっている。日本の種類については、あまり記載がないが、やむを得ない。

⑧ MARTIN, A. C. & BARKLEY, W. D. 1973 Seed Identification manual. 2nd ed. University of California Press. Berkeley

図と写真があり文献表も整っていてマニュアルとして整備されたものである。植物の種類の配列が生活域で区分されていることも面白いと思う。わが国にも、ぜひ、この程度のものが欲しいものである。

⑨ MONTGOMERY, F. H. 1977 Seeds and Fruits of eastern Canada and northeastern United States. University of Toronto Press. Toronto

写真は科別に配列されているが、種子の形から検索できる様になっている。日本と共通の種類も多いので参考になる。写真が小さいのが欠点である。

⑩ KATZ, N. JA., KATZ, S. V. & KIPIANI, M. G. 1965 A Atlas and Keys of Fruits and Seeds occurring in the quaternary deposits of the USSR. NAUKA. Moscow

記載と検索表に重点がおかれているが、図と写真もある。

現状では、これら外国のマニュアルをも動員して科、属の見当をつけ、種子標本と照合して同定するというのが妥当な方法であろうかと思われる。なお、種子の動態があわせて問題となることもあるが、

⑪ HARPER, J. L. 1977. Population Biology of Plants. Academic Press. London

などで概要を知ることができる。

なお、②、⑩は里見信生先生の蔵書をお見せいただいたものである。記して謝意を表する次第である。

○ 鈴木俊夫先生を悼む (尾崎富衛) T. OZAKI : Obituary of the Late Mr. T. SUZUKI

本会会員鈴木俊夫先生は、昭和55年12月22日肝臓病の為逝去された。ここに謹んで哀悼の意を表する次第である。

先生は豊栄市内島見の農家に生まれ、昭和16年上田蚕糸専門学校 (現信州大学繊維学部) ご卒業後、新潟県立柏崎高等女学校に着任。爾来昭和46年県立新発田高等学校を退職されるまでの30年間、生物教師として多くの人材を育成された。先生は寡黙ではあるがユーモアもあり、温情あふれる教師として生徒たちの信望厚かったとのことである。

先生のご専攻はシダで、研究のために県内を広く採集され、その標本は3万点を超える。なかでも新発田市を中心に下越の山野をよく歩かれ、県北部に限止する14種のシダをあげられた。このように新潟県のシダ相の解明に努力された成果は「北蒲原郡シダ目録」(1960)「新潟県シダ植物目録」(1969)などとなって残って